

# 高齢化社会における雇用政策のあり方

## — 人生 80 年時代の労働と生活 —

### [研究メンバー]

主査	高梨 昌	信州大学教授
	下田平裕身	信州大学教授
	高田一夫	千葉商科大学助教授
	白木三秀	聖泉短期大学講師
	森田利つ子	東京都立労働研究所研究員

### [内容要旨]

本報告書は、労働省から委託を受けて、「高齢化社会における雇用政策のあり方」の研究を実施するにあたり、コンファレンスを開催して検討を行った結果を、中間報告として取りまとめたものである。

「人生 80 年時代の労働と生活」というテーマを副題としているが、高齢社会といっても、高齢者比率が大変高くなるという問題意識ではなく、人生 80 年時代といわれる中で職業生活は半世紀、50 年になると思われ、これに応じた社会的システムのあり方について、根本的に考え直してみようという大卒の問題意識を持って、このコンファレンスを開いたものであるが、問題を分析していくための視点、切り口は大変多様であるはずであり、経済学、社会学等々、様々な学問分野の専門家のいろいろな視点からの問題提起、見直しを含めて検討することとし、①「個人に関連した問題」、たとえば家族の問題を中心にしたもの、②「産業・企業の問題」、③「高齢者就業問題」、④「公共政策のあり方」、の 4 セッションに分けて行われた。

#### I 個人に関連した問題

##### 1. 老人扶養能力からみた家族構成の変貌と見直し

今後家族構成がどのように変化するか（核家族化・複合家族化の度合い）は、高齢者を私的に扶養する能力・介護する能力がどの程度家庭内にあるかを見る上で重要な要素である。

##### 2. 生活余暇（労働と余暇）

引退過程にある高齢者の生活時間の使い方の変化を明らかにする。また、余暇時間をボランティアに振り向ける可能性を検討する。

##### 3. コミュニティー

都市地域のコミュニティーの解体による高齢者の生き甲斐喪失が問題となっている。今後地域社会がどう変質し、地域での高齢者の役割がどう変化するかを検討する。

## II 産業・企業の問題

### 1. 年功評価システムの行方

従業員の中高年化に伴う処遇制度としての年功評価システムのあり方を検討する。

### 2. 企業組織と昇進・配置・退職制

分社化をはじめとする企業組織の変化と、昇進・配置・出向・転籍の行方を検討する。

### 3. 専門職・技能職

高齢者を専門職・技能職として育成する方策、社会的流動性の可能性を海外派遣も含めて検討する。

### 4. 生涯職業能力開発

加齢に対応した職業能力開発システムのあり方を検討する。

## III 高齢者就業問題

### 1. 高齢者の再就職市場

高齢者の再就職の実態を明らかにし、その対応策、援助策を検討する。

### 2. パート・派遣

高齢者に就業機会を提供しているパート・派遣等の就業形態の現状と将来を検討する。

### 3. シルバー人材センター等

シルバー人材センター等を取りあげ、老後の就業と余暇生活を関連させて検討する。

## IV 公共政策のあり方

### 1. 年金と就業

高齢者の高い就業意欲及び高齢社会における高齢者の能力活用等を背景として、雇用延長政策が必要とされるが、ここでは、年金の支給開始年齢・在職年金との関連で検討する。

### 2. 老後の所得保障

退職金・企業年金・公的年金・財形等を取り上げ、公的年金だけでは老後生活を支えきれないといわれる高齢社会における老後の社会保障のあり方を、将来のナショナルミニマム論との関連で検討する。

### 3. 老人介護サービス

高齢社会においては老人介護が大きな問題となることが予測されているが、私的な家庭内介護、公的サービスだけでなく、地域社会・シルバー産業等も含めた老人介護サービスの供給システムを検討する。